

テキサス州で死刑濫発を見直し

死刑は高くつく？

死刑について考えてみませんか

東京拘置所のそばで死刑について考える会（そばの会）

アメリカでは死刑廃止州が増えていますが、最近注目されているのは、これまで最も死刑を（判決も執行も）濫発していたテキサス州の変化です。

仮釈放のない終身刑を導入して、死刑を控える傾向が出てきたというのです。日本弁護士連合会と大阪弁護士会が視察に行ってきました。

近く詳しい報告がまとめられると思いますが、参加者の一人から感想を聞く機会がありました。

印象深かったのは、テキサス州が政策転換を図った大きい理由は、「死刑はコストが高くつく。死刑よりは終身刑のほうが安上がりだ」ということだったという説明でした。

もともと、死刑の適用には、冤罪などがあってはならないと「スーパー・デュー・プロセス」（超厳密な司法手続き）が義務付けられており、それを保障するためには、莫大な経費がかかるそうです。

一方で、見学した終身刑受刑者の処遇状態はかなり劣悪なものだったということでした。

☆☆☆

「犯罪者を税金で食わせてやる必要はない、さっさと死刑にすればいいんだ」と反発する人がいます。「弱者抹殺」につながる主張ですから、表立って公言する人は限られるにしても、私たちに寄せられる匿名メールなどには、そういう非難の声が少なくありません。（それは、酷い労働環境のもとで頑張っている人々の生活も不安にさらされていることへの悲鳴の矛先が「死刑」に向けられているかのようです。）

☆☆☆

日本で「死刑」は安上がりだと思われているのは、アメリカのような「超厳密な司法手続き」が保障されていないからではないでしょうか。そして、アメリカでは、それほどの手続きを経てもなお冤罪による死刑が問題になり続けています。

「死刑」は限りなく高くつきます。それは「死刑」をも含んだ「殺人」という罪が、何をもっても償うことのできないことに根ざすのかもしれませんが。

※テキサス州視察には、元法務大臣で死刑執行を控えた杉浦正健氏も参加しました。杉浦氏も招いた報告集会を準備中です。詳細決定次第、そばの会のホームページ等でもご案内しますので、ぜひ、ご参加ください。